

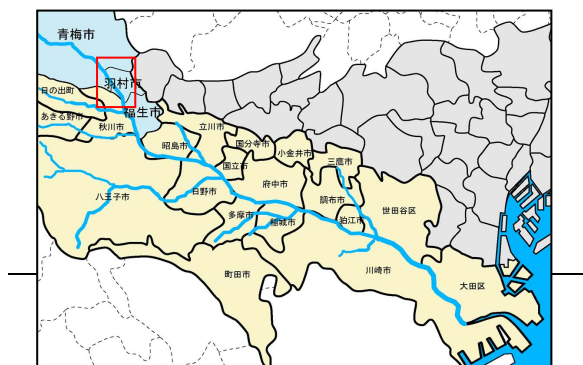
多摩川上流雨水幹線の概要

～わが国初の流域下水道雨水幹線～

東京都西部に位置する青梅、羽村、福生市の約1,200haの地域は、人口の集中に伴って市街化が急速に進み不浸透面積の拡大を招いた。このため雨水流出量が増加し、浸水被害が頻発していた。

多摩川上流雨水幹線は、このような浸水被害の早期解消を目的とし実施されたわが国初の広域的な流域下水道による雨水排水施設の整備事業である。

流域図



新制度の実現

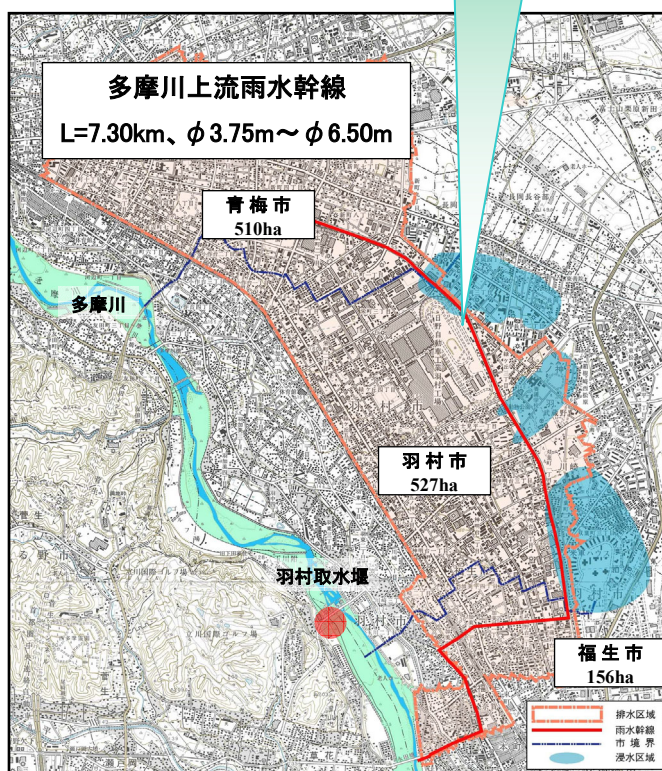
雨水を排水する施設の整備は各市町村が実施することになっている。このため各市は個別に公共下水道による雨水排水施設の整備を検討したが、放流する中小河川がなく、また、1200万都民の水道の取水口である羽村取水堰より上流の多摩川へ放流できないなどの制約から、その整備は困難なものであった。

このため東京都は国の関係機関に働きかけ、雨水排水施設を流域下水道により整備する新たな制度を実現した。

浸水被害の状況



計画概要図



事業実施までのフロー

雨水排水施設の整備は各市町村で実施



羽村取水堰より上流に放流できない

各市単独での事業実施は困難



3市を貫く広域施設が必要

広域的な雨水排水計画の策定(新制度)



国との度重なる協議

わが国初の流域下水道による雨水幹線